



Data

監督・脚本・編集・プロデューサー：
是枝裕和
原作：業田良家『ゴータ哲学堂 空
気人形』（小学館ビッグコミ
ックススペシャル刊）
撮影監督：李屏賓（リー・ピンピン）
出演：ペ・ドゥナ / ARATA / 板
尾創路 / オダギリジョー /
高橋昌也 / 富司純子 / 岩松
了 / 星野真里 / 余貴美子 /
丸山智己 / 奈良木未羽 / 柄
本佑 / 寺島進

 みどころ

第62回カンヌ国際映画祭での受賞こそならなかったが、是枝裕和監督の摩訶不思議な傑作が誕生！無機質な空気人形と中年男との会話やセックスは不気味だが、そんな空気人形が心を持ったとしたら？美人ではないが個性的な顔だちの韓国女優ペ・ドゥナの、ヌードも辞さない1人2役(?)の熱演に拍手！「映画は脚本が命！」と納得する、ストーリー展開もお見事！たまにはこんな映画から、今を生きる人間たちの心の空虚さを考え、空気人形の視点から人間の本質を見つめ直してみては？

* * * * *

こりゃ、何とも摩訶不思議な傑作！

『誰も知らない』（04年）は、第57回カンヌ国際映画祭で最優秀主演男優賞を最年少で受賞した柳楽優弥くんを一躍有名にした是枝裕和監督の傑作（『シネマルーム6』161頁参照）。また、同監督の今ドキ珍しい家族映画が『歩いても 歩いても』（08年）だったが、これをもたくさんの賞を受賞した秀作（『シネマルーム19』325頁参照）。しかし、同監督の『花よりもなほ』（06年）は、星3つと私の評価は低い（『シネマルーム11』128頁参照）。

しかして、09年の第62回カンヌ国際映画祭の「ある視点」部門に出品されながら惜しくも受賞を逸した本作は、何とも摩訶不思議な傑作！

なるほど、これが空気人形！

空気人形は空っぽな誰かの「代用品」。また、空気人形は性欲処理の「代用品」らしい。その意味は、映画冒頭に登場する秀雄（板尾創路）と空気人形（ペ・ドゥナ）との接し方を観ているとよくわかる。

ファミレスの店員をしている冴えない中年男秀雄は川沿いの小さな町にある古びたアパートでわびしい一人暮らしをしているが、その愛用品が空気人形。空気人形と語らいながらの夕食。一緒に入る風呂。ベッドでプラネタリウムを鑑賞しながらの暫しの語らい。電気を消した後、自然に営まれるセックス。そして何とも侘しい、その後始末……。なるほど、これが空気人形かと実感させられるが、同時に何とも言えない侘しい気持ち。

是枝監督はなぜ空気人形に着目？

原作は業田良家氏のたった20頁の漫画らしいが、プレスシートの中では是枝監督が述べている、「単純にこの短編集を読んだ時に、人形がビデオ屋の床の上で破けて萎んで、自分の好きになった男の人に息を吹き込まれる描写が非常にエロティックだったんです」という言葉が面白い。

本作のメインストーリーは、心を持ってしまった空気人形が鮫洲店長（岩松了）のレンタルビデオ店でアルバイトを始め、そこで働く純一（ARATA）と仲良くなっていく形で展開する。純一から映画の知識を教えられながら仕事に少し馴れてきたある日、棚を整理していた空気人形はバランスを崩して倒れ落ちたが、その際クギにひっかけて手に穴があいてしまったから大変。もちろん、空気が抜けていく様子を見た純一もビックリ。しかし次の瞬間、「見ないで・・・」という空気人形の言葉に逆らって、純一はキズ穴をセロテープで塞ぐと共にお腹にある空気穴から息を吹き込んでいったから、以降物語は急転換していくことに。

決して美人ではないが何とも個性的な顔だちの韓国女優ペ・ドゥナが、「代用品」としての空気人形と心を持った空気人形の2役(?)をヌードを辞さない覚悟で見事に演じ分けているが、撮影監督としてコラボした『花様年華』(00年)や『春の惑い 小城の春』(02年)の撮影で有名な台湾生まれの李屏賓(リー・ピンピン)は、このエロチックなシーンをどんな風に撮影？

この空虚さは『東京砂漠』と同じ？

本作には、富司純子(未亡人役)、余貴美子(受付嬢役)、寺島進(おまわりさん役)らのビッグネームが並び、また、浪人中の受験生、透(柄本佑)、OLの美希(星野真里)

小学生の萌(奈良木未羽)とその父親真治(丸山智己)ら多くの人物が登場する。しかし、その登場シーンはいずれも少しだけ。彼らの役割はすべて、今の東京に生きる人間たちの空っぽさ、空虚さを浮かびあがらせることだ。

空気人形が純一と心魅かれあったのは、純一の心の中が空気人形と同じく空っぽだという告白を聞いたため。そしてそれを理論的に補強した(?)のは、1人公園のベンチに座る元高校教師の老人敬一(高橋昌也)が語ったかげろうの話。それはつまり、空気人形の告白に対する敬一の「私も同じだ。いまどきは、皆そうだろう。君だけじゃない」との説明だ。しかし、ちょっと待てよ。そんな空虚感にはデジャヴ(既視感)が。それは、かつて前川清が歌って大ヒットした『東京砂漠』。この歌は恋についての空虚さがテーマだったが、是枝監督が本作でアピールするのは、人間そのものの空っぽさ、空虚さ……。

心を持つことの功罪は？

空気人形がなぜ心を持ったの？そんなことってあり得るの？そんなくだらない疑問をもつ人は、本作を観る必要なし。だって、本作のテーマはそんなことではないのだから。無機質な空気人形に語りかけ、毎夜のセックスをくり返す秀雄はちょっと不気味だが、実はそんな心は私にもあなたにも？

他方、空気人形が人間の心を持つとどうなるの？そこで生まれるのは、店長からの「彼氏とかいるの？好きな男……いるんでしょ？」の質問に対する「いいえ……」という嘘であり、新型の空気人形にうつつを抜かす秀雄が言い放った「元の人形に戻ってくれへんか？ただの人形に。俺こういう面倒くさいんや」への反発。そして、純一との切ない恋に目覚めた空気人形が「誰か私を愛してくれるのだろう？」と自問自答した時、同じ空気人形だと理解した純一に対して空気人形がとった驚くべき行動とは？

ラスト近くになって登場する、空気人形を製造した人形師の園田(オダギリジョー)と、『若きウェルテルの悩み』と同じように(?)心を持ってしまったことに悩む空気人形との間で交わされる哲学的な会話(?)をじっくり味わいながら、空気人形が心を持つことの功罪を真剣に考えてみたい。

2009(平成21)年7月11日記



「空気人形」

(きょうから梅田ガーデンシネマほかで公開)



©2009 業田良家 / 小学館 / 『空気人形』製作委員会「写真 / 瀧本幹也」

名な台湾生まれの李屏賓。さて、その映像の興奮度は？

物語の本格的な展開はこの後。心を持った人形が、性欲処理の代用品としての存在に耐えられなくなった後の生きサマは如何に？ ベッドに眠る新型人形への反発、生みの親であるオタクリジョー扮する人形師との哲学的会話(?)など、物語は意外な膨らみを見せていく。

しかして人形が心を持つことの功罪とは？ 人

心を持つことの功罪は？

空気人形は空っぽな誰かの代用品。それは頭の中では分かっているが、冒頭で描かれるやえない中年男と空気人形との会話や擬似セックスを見ると、何とも怪しい気持ち。

「誰も知らない」(04年)の是枝裕和監督が漫画家業田良家のたった20ページの漫画に着目したのは、破けて萎んだ人形に男が息を吹き込む描写が

エロチックだったから。そんな意識は男なら誰でも共通？

美人とは言えないが個性的な顔立ちの韓国女人優ベ・ドゥナが大胆なヌードを披露しながら、固い人形と心を持ってしまった人形の『ある意味での』役を熱演！人形はある日1人で街へ出掛け、レンタルビデオ店で働き始める。メイド姿の人形に心を寄せた

のは純一(A.R.A.T.A.)。2人の仲は順調に推移したが、ある時、店内で転んで釘に引っかけ、破れた穴から空気が抜け始めたから大変。そこで傷口をゼロハンテープで塞ぎ、お腹の空気穴から息を吹き込んで救ったのが純一だった。ここから2

人の恋は新たな局面へ。撮影監督は「花嫁年華」(00年)や「春の惑い 小城之春」(02年)で有

ぼ？